

# かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 9 No 11

100号

平成13年11月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>



## 100号を迎えて

- 生きてきた証 -  
院長

お陰様で、かわむらこどもクリニックNEWSが100号を迎えることが出来ました。これも、ひとえに患者（読者）さんの支えのおかげだと思っています。思い起こしてみると、今から8年前「お母さんの不安・心配の解消」の理念をもって開業し、その理念の実践のため院内報を発行しました。第1号発行までかかった時間が、今では懐かしく思い出されます。毎月新しい題材を探し、話題が重ならないようにと思いながら、紙面を作り続けています。振り返ってみると、あっと言う間に過ぎてしまいましたが、この100号という蓄積は大きな財産になりました。はたしてどれだけ、皆さん方の役に立って来たのでしょうか。記事で弱音を吐くと頂く励ましの投書やメール、何気ない感謝の投書などが支えになって、ここまでやって来れたのだと思うと、感謝の気持ちで一杯です。

先月、小生も50歳になりました。50歳と100号、どうも大きな区切りのひとつのような気がします。このような区切りの時期を迎えると、誰でも考えてしまうことがあります。今までどう生きてきたか（何をやってきたか）と、これからどう生きていくか（何をするのか）です。やはりこの年になると、生きてきた証ということが気になりました。今までのことを少し思い出してみます。長年にわたり新生児医療に従事し、たくさんのお母さん方とのふれあいの中、お母さん達の喜びと悲しみの涙に育てられました。現在あるのも、そして当院の開業理念である「お母さんの不安・心配の解消」も、全てその時学んだことが基礎にあるからです。

実は一つの証と呼んでいいことが、今年ありました。今から17年前仙台赤十字病院で、576gと630gの双子

の男の子が生まれました。当直は産婦人科の先生と二人、産科の先生は母体にかかり切り、小生一人で順番に赤ちゃんの対応をしなければなりません。十分な呼吸が出来ないため、二人とも挿管（細いビニールの管を気管の中に入れること）して、保育器に収容し人工呼吸器による治療を始めました。生まれてから6ヶ月程保育器の中で育った兄弟は、無事退院となりました。その後、小生は日立製作所日立病院に新生児集中治療室を開設するために赴任しました。576gの子は昭男君といい、日立市で一度、小学校へ入学する頃に会いました。今年の夏、「仙台に来る用事があるので、是非お訪ねしたい」との電話がありました。高校生になった姿が想像できず、期待よりむしろ不安がつのるなか、会う日を待つことになりました。訪ねて来てくれたのは、見覚えのあるお父さんとお母さん、そして小生より立派な体格をした青年でした。その青年が、誰だろう昭男君だったのです。昭男君は、高校ではウエイトリフティングに所属していると聞いた時、思わず胸に熱いものが込み上げて来ました。不安のなかで出産し、心配な思いで保育器の中を覗き、ここまで大事に育てていただいたお母さんお父さんの苦労には、頭が下がる思いでした。

自分の行ってきた道を、自分で評価することは簡単です。しかし生きて来た証とは、自分で証明するものではなく、誰かが証明してくれるものだ改めて感じました。開業理念、クリニックNEWSの発行、ホームページの開設、お母さんクラブの開催、患者さん専用のメールアドレスなどです。今回100号を迎えること、ホームページのアクセス数など全てが、当院のかかりつけの患者さん、HPへアクセスする方、医療相談者、メールを送ってくれる患者さん、そして評価してくれるマスコミの方など、様々な人たちの支えによって成り立っているのです。また、今回たくさんのお母さんや子どもたちの協力を得て、特集号にすることが出来ました。そして家族やスタッフの支えにも大きな力があつたことを、付け加えておきます。この場を借りて、支えてくれた多くの方々に感謝したいと思います。本当にありがとうございます。この区切りが自分にとって、また新しい一歩を踏み出す力になると信じています。



## 11月の予定

・3歳健診のため午後休診

12月7日（金）

・栄養育児相談

毎週水曜日、栄養士担当  
参加無料



## 昭男君からの手紙

お手紙ありがとうございました。先生にお会いし、お話しができて本当によかったです。その後日赤病院へ行き、直接中に入ることはできなかったのですが、父が「今、こうやって昭男と同じ状況で必死に生きようとしている子供たちがいるんだよ。」と聞かされた時、「今、自分がここにいるのは川村先生のおかげなんだ。」という気持ちが込み上げてきたと同時に、感謝で胸がいっぱいだったことを覚えています。今、僕はウエイトリフティング部に所属しています。いろいろあって大変なのですが、部活のみんなと楽しく、時には厳しく仲間同士みんな、声をかけあって頑張っています。最後になりましたが、お体に気をつけて、これからの川村クリニックが今以上に全国の皆さんに広まることと、一人でも多くの未熟児が助かるように心から祈っております。



お陰様で17才になった息子は576gという体重で生まれたことを感じさせない程成長してくれたと思います。子供が幼稚園、小学校の頃は同学年の子供さんとあらゆる面で比較している私がいまいました。風邪をひきやすく、高熱が何日も続いて、何度点滴してもらったことか。小学5、6年生になってクラスのまん中くらいに並び子供を見て、小さく生まれたことを意識しなくなったのも、この頃だったと思います。3才位まで言葉がでてこないで、悩んだこともありましたが、6ヶ月近く保育器に入っていたのに障害もあるわけでもなく、子供の生命力もあったのですが、川村先生というすばらしい医師に私達家族がめぐりあえた事が一番の幸せだと感謝しています。

昭男君のお父さんから



昭男君手紙ありがとうございます。この特集号に協力してくれることを快く承諾してもらったこと、本当に感謝しています。ありがとうございます。そしてお父さんお母さんからは、身に余るような手紙まで頂きました。本当にありがとうございました。

## お母さんたちの投書

お母さんから頂いた投書やメールを紹介します。全て100号特集に頂いたものですが、福士さんは、以前頂いたものを100号に掲載する旨、承諾を得ています。実名での掲載とさせていただきますが、内容により一改变させていただきます。

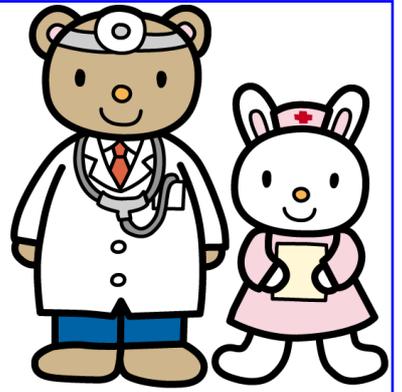
新聞100号突破おめでとうございます。先生とスタッフの皆さんが今まで忙しい中ご苦労なされたことと思います。「祝100号」に何を書こうかと考えたのですが、、2年半の間、佳樹がお世話になった中で一番の思いでは、2000、4にロタウイルス胃腸炎で倒れたときのことです。4/14、夜突然嘔吐し青白く水分すらも受け付けなくなったので、救急病院に行きました。座薬(吐き気止め)を頂いただけで帰って来ました。4/15、朝から先生のところで診て頂き、疑われる病気と注意事項の説明を受けました。4/16、脱水気味になっているとのことで佳樹は点滴をすることになりました。この時、看病疲れと、佳樹と同じ様に嘔吐していて具合が悪かった私と、だんなも診ていただきました。私もだんなも点滴をしていただくことになりました。佳樹は朝から夕方まで4本、私とだんなはそれぞれ1本ずつ点滴をしていただき、帰るころには見違える様に元気になりました。大げさですが、親子3人先生に助けられました。本当にこどもクリニックの温かさを感じました。今でもだんなとあの時は病院を占領したような気分だったねと、話したりしています。佳樹と私、そしてだんなまで(よく一緒についてきた)病院にはよく行かせていただきました。本当にありがとうございました。それからもう一つ思いがあります。中米看護婦さんが激やせしたことです。本当に驚きました。ちなみにだんなは少しぼちゃりしてる看護婦さんが好きらしい(笑)だんなつづきでもうひとつ。実は、よくうちのだんなは先生のものまねをしていました。メモ帳に字を書いて「お母さん、あのな」という風にしていました。本人はいつか先生の前でやるつもりだったのですが、引っ越ししてきてしまったので夢、かなわずでした。(先生すみません) 真面目じゃない文章を書いてしまいました。私達親子にとってとても好きな病院でした。(今でも大好きです。)どうぞこれからも皆さん、お体に気をつけてますますご発展(?)下さい。青森県 和久 美子(佳樹 寛明)

子どもの健康には、親御さんの健康も大事なことです。余裕がなければ、子どもの状態まで気が回らなくなってしまいます。そういう意味で、小児科はかかりつけのファミリードクターなのでしょう。

100号発行おめでとうございます。いつも2人の息子がお世話になり有り難うございます。昨年1月、主人の転勤に伴い東京から仙台へ引っ越すことになり、いろいろな面で不安でした。特に二男哲也は、664グラムの超未熟児で誕生したので、病院のことが一番の心配でした。そんな時、仙台に先にいらしていた知人から「かわむらこどもクリニック」のことを教えて頂いたので、ホッとしました。仙台に来てすぐにお世話になり、診察して頂くたびに、母である私の心のケアまでして頂いております。幼稚園へ入学し、一番お世話になるこの時期に川村先生にお世話になる事が出来、本当に有り難く感謝の心でいっぱいです。転勤族なのでいつまでお世話になれるか解りませんが、これからもよろしく願います。それからご多忙な先生、お体だけはくれぐれもご自愛下さいますように..... 青葉区 今村 浩一郎.哲也の母

今回の昭男君からの手紙、役に立ったでしょうか。やはり同じような超低出生体重児の成長した姿を見て安心する。そんなことが時には必要かもしれせん。しかし、くれぐれも他のお子さんとの比較は無しですよ。

先日は約2年半振りにお世話になり、ありがとうございました。久し振りに見る待合室の風景や変わらぬ看護婦さんと先生の姿に、2ヶ月の検診で初めて貴院を訪れてから引っ越しをする2歳半までのことが懐かしく思い出されました。 に引っ越してからは、なかなかかかりつけの小児科を決め兼ねていましたが、元来健康である息子なので日本脳炎の予防接種以外、小児科には殆どお世話になることなく過ごしておりました。少々の熱や咳、鼻水が出ても慌てず騒がずにいられたのも初めての検診で頂いたクリニックニュースのお陰に他なりません。それに加えて、HPの方も度々お世話になっております。それでも今回は「肺炎」という診断にただただオロオロしてしまい、いっこうに下らない熱と夜も眠れない咳に、すぐるような思いで「かわむらこどもクリニック」へと車を走らせました。自分の車を持ち、ようやく運転にも慣れてきたとはいえ、久し振りに走る道に迷いながら辿り付きました。病院を目にした時には安堵感で涙さえ流れてきました。そして診察の時に、先生がまずおっしゃった「それでお母さん、何が一番心配だ?」という言葉…。どこの小児科に行ってもどこか物足りなく、何かしら不安が残っていた原因はこれだったのだと納得させられました。母親自身が不安な気持ちでは、子供の症状にオロオロするばかりで、ちゃんとした看病をしてあげることができないのです。先生の開業理念である「母親の心配・不安の解消」ということに改めて頭が下がる思いでした。他に、そこまで考えて診察してくれる医院が果たしてあるのでしょうか。今回の風邪で先に訪れた休日当番医では「肺炎です。点滴1本受けて帰って。薬飲んでよくなれば終わり。だめだったら3日後にまた来てください。」と言われただけでした。「肺炎」と診断されただけでうろたえてしまい、不必要に動揺し不安な気持ちでの看病…。川村先生のように「咳が酷くて眠れないのも肺炎なんだから仕方ない。熱があっても好きなビデオが見られるくらいなら大丈夫。」と言ってもらえたなら、看病する方もどーんと構えて一緒に頑張れるのだなと実感しました。昔のことをふと思い出しましたが、あれは息子がまだ1歳にならない頃だったと思います。結婚指輪を飲み込んでしまったのではないかと慌てて貴院を訪れたところ、レントゲン撮っていただき、辛い飲み込みではありませんでした。「親の不注意で…」と、とても心配し落ち込んでいたのですが、その時にも先生に「とりあえずこれで安心したでしょう」と優しい言葉を掛けて頂きました。看護婦の中米さんも「よかったですね」と、とても優しく声を掛けて下さったことを今でもよく覚えています。 に越して間もない頃に、息子が鼻の中にラムネを1粒入れてしまったことがありました。取ろうとするとますます奥に入りそうで、慌てて近所の小児科に電話をかけたところ「ラムネなら溶けるでしょう。それにここは小児科で、鼻なら耳鼻科ですよ」と冷たく切られたことがありました。耳鼻科に電話をしたところ「気管や肺に入ったら危険なので急来てください」と言われ、昼休みにもかかわらず直ぐに診ていただくことができましたが…(辛い溶けてなくなっていました)。息子も先日5歳の誕生日を迎えましたが、幼稚園も始まり病気はもちろろん、これからは怪我の方も心配は尽きません。何でも相談でき、そして何よりも自分が信頼できる先生に診ていただくことが一番だと実感しました。距離が気にならない訳ではありませんが(具合の悪い時に長時間車に乗っているのも可哀想ですが)、やっと運転にも自信がついてきた今日この頃なので、今後もお世話にねりたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。 郡 福士 輝美



ちょっと問題がでるかもしれないので、住所や固有名詞は隠しておきます。親御さんにとって病院は、様々な思いがあります。遠いところから通って来なさいとは言いませんが、何軒かの小児科を通りすぎてきてくれることはありがたいことです。そんな当院に対する思いの強いお母さん方に支えられているのです。くれぐれも車の運転には、気をつけて下さい。いつも書くことですが、小児科は薬と一緒に安心をもらってるところなのかもしれません。

「私の探した小児科医」長女が生まれて近所の小児科を探すと3つ。かわむら先生のところは、とても待つとのウワサで、すぐやめて(?)他の小児科へ。カゼから健診まで1年近く通い、育児相談にもニコニコ答えてくれていい先生でした。長女の1才誕生日前、次女を出産。退院してきてすぐインフルエンザか高熱がでて、産科へTELすると小児科でみてもらったらとのこと。いつもの小児科へTELすると「今日12/29は午前中で終わりなんですよ。30分しかないのにこれですか?」「すぐ行きますが、新生児でもみてもらえますか?」「あのねえ、近所で休日当番がいるから、そっちに行ってください!」。ガチャと切れたのです。最初に長女の名前をいえば、態度は違ったのでしょうか…。とても残念に思いました。出産の1週間前2人目が生まれるので、よろしくと話していたからです。そして、その時の休日当番医は「かわむらこどもクリニック」だったのです。その時の新生児に対する高熱、インフルエンザetc、たくさん説明してくれたかわむら先生のところへ通うようになったのは、いうまでもありません。(3時間も待ちましたけど) 郡山市 相沢 有美

遠くに住んでいても応援してくれる患者さん、本当にありがとうございます。実家に帰ったときは、遠慮なく(病気では困りますが)訪ねてきて下さい。3通もの投書頂きましたが、誌面の都合で1通だけにしました。3時間待ちの診察大変だったでしょう。小生が説明しなければ、待ち時間は少なくなります。元来おしゃべくりで、ついつい長話をしてしまうときがあります。患者さんがたまってしまい反省すると、スタッフが「それが先生の良いところ」と、慰めてくれます。待ち時間よりもっと大切なことがあるはず。混雑時の待ち時間、少し我慢してもらえますか?。

お久しぶりです。遅くなりましたがお誕生日おめでとうございます。もしかしてついに大台に乗ってしまったのでは！。わたしと同じうさぎ年と記憶しているので、ふふふ。そしてそして創刊100号おめでとうございます。すごい！快挙ですね！。現在4年生の長女が1歳だった8年少し前、建築中のこどもクリニックを見つけて近くに小児科が出来るんだー！と嬉しかったことから始めて、2人の娘は朝から晩までの点滴もしょっちゅう、長女の水疱瘡の時は先生が入院してたっけ、次女に心臓病が見つかったときは他の病院で検査の度に川村先生のところへ行って話を聞いてもらい安心し、ひどいインフルエンザで引越しを延ばすほどだった2年前にも最後の最後まで本当にお世話になりました。我が家の娘達の歴史と共に病院の思い出がよみがえります。秋田生まれで今は船橋で暮らす私達ですが、仙台はまさに第二の故郷です。遠く仙台から離れてもなお私達に問題を提起し、情報を提供し続けてくれ、安心と勇気を与えてくれる川村先生、これからもどうぞよろしく！！。きょう家の中で、とってもいいものを見つけました。あす写真で送ります。びっくりさせちゃいます。おやすみなさい。千葉県 木内広美



木内家のお宝写真

お宝ということで、何なのか興味津々でした。写真が送られてきて、びっくりしました。朋美ちゃんも南美ちゃんも、すっかり大きくなりましたね。とても可愛く撮れています。持っているのは、8年も前の開業の時のチラシです。よくぞ、とって置いてくれたという感じです。恐らくこのチラシ、まだ持っている人は、世界広しと言えど木内家だけかもしれません。このクリニックと先生が将来有名になって、プレミアムがつくかもしれません(ちょっと冗談ですが)。大事に保管して下さい。たった一枚のチラシ、当院への思い入れが強く伝わってきます。

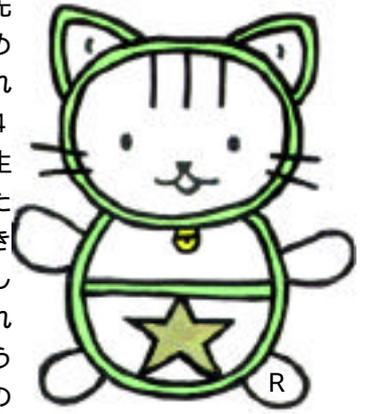
新聞が100号・おめでとうございます。何時頃出るのでしょうか？。是非読みたいのですが、子供に風邪をひかせるわけにも行かないので新聞だけ頂きたいのですが、100号と言うことで私も思い出を書かせて頂きます。以前りょうへの事で新聞に載せていただきましたが、今となって心に大きく残っていると言うか、育児に関して考えを変えて頂いたのは、みくが「熱性けいれん」をおこして救急車で運ばれた時の事です。3人目とはいえ、うちの子供達はいまだに血を流す怪我も無く、慌てて病院に連れて行くと言ったことがなかったので私自身がパニックを起こしました。正直今も4人を育てていて、ちょっと考えると不安になる事が沢山あります。あの時先生にもお話したように、救急車の中ではとにかく怒られて「子供が心配なだけなのに、何でこんなに言われなきゃいけないだろう？」と逃げ出したい気分でした。まだみくもしっかりしてないのに、いかにも「こんな事で呼ぶな」ということを言われ「お母さん、子供何人いるの？」と聞かれ「3人目です」というと、「そんなんじゃこの先育てて行けないよ」と言われたのがすごく心に残りました。きっと先生のとこにいても同じような事言われるんだろう...と思いつつ着きました。看護婦さんが2人道路に立っていてくれて救急車のドアが開いた瞬間に、すぐ「びっくりしたでしょう？もう大丈夫だからね」と肩を抱いてくれました。もう涙が止まりませんでした。今でも思い出すだけで涙がでできます。普段病院で笑い話をしている看護婦さんが、本当に子供も私も守ってくれてるようでした。先生も私に「泣かなくて良いよ。大丈夫だから」と言って下さったし、救急車の中で怒られた話をして、もし又こうなったらどうしたらいいかと先生に聞きました。先生は「そんな事言ったのか。なんか言われたら、ちゃんと税金払ってるんだって言いなさい」と言ってくれました。そのことばを聞かなければ、私の中ではいつも不安が消えなかったと思います。それからしばらく、みくが寝ても突然けいれんを起こしたらどうしよう？とか心配で寝れない日がありました。でもいつも自分で「もしもの時は救急車を呼んでいいんだから...」と言い聞かせていました。幼稚園では、わりと何回もひきつけを起こすと言う人が2人いて、どちらも私と同じ経験をしていて



「どの程度で救急車を呼んでいいのかわからない」というのが悩みでした。私は先生に言われたことを言って皆に「そうだよね」なんて言われて得意になっていました。病院に行ったりしても、なぜか子供を心配すると、「お母さん、心配しすぎ」とか、過保護みたいにも思われたりしないかと、気を付けながら小さい思いをしなきゃなかつたりするのですが、川村先生のところにいると堂々と子供を心配してもいいので安心してしまいます。今年は先生も怪我をされたり、大変な一年だったと思いますがこれからも皆の先生で頑張ってください。泉区 成田幸恵

インターネット医療相談をしていると、医師だけでなく医療関係者の一言ということの重みとすることを考えてしまいます。言った本人が何気なくとも、聞いた側にはかなりのショックを与えることがあります。その代表が医師の言葉でしょう。本人が思っている以上に、患者さんには大きな影響があるのです。やはり自分も含め、一言の重さには注意が必要でしょう。前に骨折で入院したとき、メールを戴きました。自分の親御さんにも話していない経験を打ち明けて骨折の痛みがわかると、お見舞いを頂きました。患者さんとよいコミュニケーションがとれていることを、これほど感じたことはありませんでした。ありがとう。(読者の皆さんには、何だかわからないかもしれませんが)

クリニックnews100号 すごい!おめでとうございます。これもひとえに、川村先生の睡眠時間削減の成果でしょうか?。とにかく、患者のみならず、全国の悩める親のために、力を注いでくださって、本当にお礼申し上げます。100号を記念して、私が一生忘れられない、川村先生との思い出を書きたいと思います。一年半前の4月でした。当時、4歳、年中で入園する長男のことで、悩んだあげく、数通のe-mailのやり取りの末、川村先生の前で号泣している私がありました。長男は、新生児の2ヶ月検診から、川村先生に診ていただいていたにもかかわらず、真剣に相談したのは初めてでした。保健所の1歳半検診のときから、身体ではない発達の遅れを指摘され、2歳、3歳と、児童相談所の親子教室に参加していました。児童相談所の親子教室は、一般的ではないと思いますが、知的、身体的に遅れのあると思われる子供の参加する親子教室です。そして、来年から幼稚園に入園するという年の秋、紹介されたのが、「統合保育」でした。「統合保育」って言うのは、発達に遅れのある子供を、仙台市の認可保育園で、普通の子供と一緒に専門の先生を置いて、手厚く保育するというもので、その内容が書かれた説明書には、「障害児」という言葉がありました。長男は、見た目はまったく普通で、多少、ほかの子供よりも、話すのが下手、対人関係が下手、成長がゆっくりなだけで、そのうち、他の子供と変わらなくなるだろうと、たかをくくっていた私には、非常にきつい一発でした。しかし、ショックの反面、本当は、自分の中では薄々分かっていた、気づいていたのに、それを信じずに、ひた隠しにしていたのかもしれないという葛藤もありました。誰にも話さず、誰にも相談できず、主人にも周りにも気丈な姿を見せつづけ、精神的にはいっぱいだったのでしょうか。夜中眠れず、毎日考えることは同じでした。そんな時、クリニックのホームページを見て、「まずは主治医にご相談を」という言葉を見つけました。自分の主治医は川村先生のはずなのに、何で夜も眠れないほど悩んでる自分に気づいてくれないんだろうと、今思えば、すごいことを思っていたものだと思います。そして、相談した1通目のe-mail。先生からの返信は、「お母さんの言ってることがよく分からない」というものでした。川村先生にとっては、あたりまえだったと思います。児童相談所の内容も、今の長男の状態も、病気の診察以外は、話したことも、聞いたこともないんですから。その後、何通かのe-mailのやり取りの末、前記のように、先生の前で号泣したわけですが、あの日の事は一生忘れられないと思います。真っ暗闇の向こう側、トンネルの出口が見えたような気がしました。人に話す事の大事さ、開放感、前向きな気持ち。あの日の帰りの車の中で味わった幸福感は、言いようの無いものでした。そして、数日後、輝くような紹介状を私は手に入れたのでした。川村先生については、子供の相談事について、専門外という言葉は無いのではないのでしょうか。自分では診れないようなことでも、最大限の処方をしてくれますよね。私のように爆発寸前になる前に、川村先生の前で、めそめそしてみましょ。きっといい処方箋が出るのではないのでしょうか。親にとって良い事は、最終的には、子供の幸福につながると思います。青葉区 遠藤ゆり

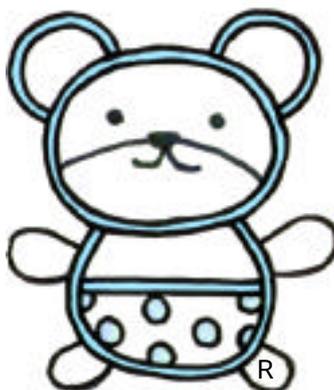


そんなこともありましたが、時々診察中に涙を見せるお母さんがいますが、号泣したお母さんは他にいません。子どもがうまく育っていくためには、お母さんの心の安定が、とても大事なことです。「泣いて病気が治ったり状況が改善するのであれば、泣きなさい。しかし困っている子どもが、泣いているお母さんを見たらどう思う。子どもはお母さんを頼っているんだよ。泣いてもいいけど子どもの前では、無理してでも笑顔を見せてあげるように。」と話しています。遠藤さんの言う通り、親が良ければ子どもも良いのです。この分の中には、ほんと大切なことが書かれています。

川村先生、いつもお世話になっております。森愛加の母です。土曜日には、愛加の急な夜中の発熱にびっくりしましたがおかげさまで、一晩明けた今日は、熱も下がってホッとしました。薬がなくなる前に、お伺いしますので、よろしく願います。ところで...私なんぞが、100号記念に寄稿するなんて、図々しいと思い、遠慮していたのですが、今日の夕方の教育テレビを見ていたら前々から思っていたことを、お話してみたいな...なんてことを思ったのです。と、いうのはですね!NHK教育テレビでやっている、「お母さんといっしょ」に出ていた、2~3代前の歌のお兄さんをして

いた、坂田修というミュージシャンに川村先生が似ているな...と、いうことです。小児科のお医者様の川村先生と子供向けの番組やファミリーコンサートなどを中心に活動している坂田氏と、何か合い通じるものがあるような...よく、顔や骨格が似ている人とは声も似ていたりすると言うことを聞いたことがあるので、機会があれば川村先生のカラオケなどでの、歌声も聞けたらいいな~と、思っている今日この頃です。宮城野区 森 祐子

森さんは、よくメールをくれる一人です。今回の歌のお兄さんとの比較、意外でした。カラオケ、そんなに行くことはありませんが院内の催し事があれば、必ずみんなで行きます。当院には歌姫がいっぱいいるのです。自分はあまり唄いませんが(スタッフからは嘘という声か飛んできそうです)、嫌いではありません(記憶にはありませんが、ひょっとするとマイク離さないのかも)。お母さんクラブのクリスマス会では、毎年唄います。ピンゴの賞品のひとつに、先生とのデュエットがあります。是非、どうぞ。

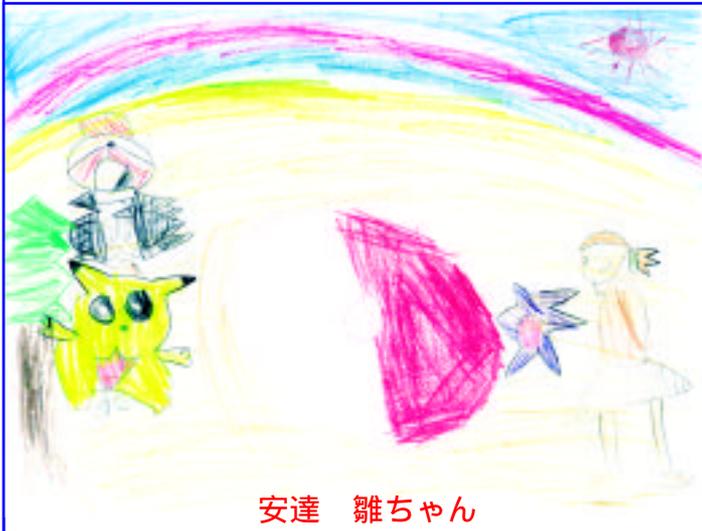


子供の時間のスケールは大人に比べるととても早く、成長も早ければ体調もしばしば崩します。そんなときいつも親子で川村先生にお世話になります。子供は治療してもらい、親は「安心感」という得がたい薬を頂いています。いつも本当にありがとうございます。青葉区 桜庭雅彦（周治・優の父です）

赤ちゃんは、たった1年で歩いて話せるのです。それに引き換え、自分も含め大人の進歩というのは、ほんのわずかしかなかった。当院の理念「お母さんの不安・心配の解消」、そのままです。いつも思うのですが、母親だけで良いのかと。しかし「母親父親の...」では、語呂が悪く「お母さんの...」にしています。お父さん達にも役立っているのであれば、一安心です。



周治ちゃんと優ちゃん



安達 雛ちゃん



伊藤 大地くん



佐藤 勇希くん



太田 真人くん



藤枝 千咲子ちゃん

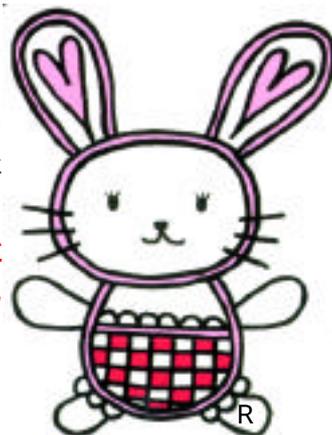


菊地 光琴ちゃん

### 子どもたちの展覧会

お母さん方の声掛けもあって多くの作品が集まりました。みんな、上手に書けていました。本当にありがとうございました。またの機会には、是非お願いします。

本当にありがとう！！。みんな！、サンキュー！！。



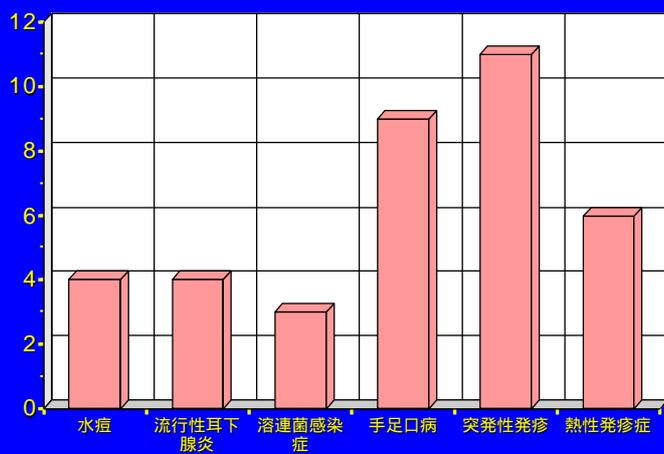


## 読者の広場

先月も30件以上の投書やメールを戴きました。青葉区の高橋さんからのメールです。「今日3回診察していただいた高橋瑞穂の母です。何度もありがとうございました。(熱性けいれんだから大丈夫・大丈夫...)と自分に言い聞かせても、目を開けるまでは(このまま目を開けなかったら...) 声を出すまでは(しゃべれなくなったら...) 意味のある会話をするまでは(お馬鹿になっちゃったら...言葉が悪いですが)と、やはり心配でした。川村先生からの帰り、抱っこされながら歌っている声を聞いて一安心しました。本人は3回目に先生のところに行ったことは全く覚えていないようで、抱っこで帰ってきたことも記憶にないそうです。それを聞いてちょっとギョッとしてしまったのですが、酔っぱらって記憶を飛ばす大人もいるのだから、この位は変ではないのでしょうか。さっきは寝ぼけて最近お気に入りの「箱根八里」の1フレーズを歌っていました。「いっぴかんにあたるやばんぶもひらくなし」ちょっとシブイ3歳児です。思えば1892グラムの低体重(38週)で生まれたときは大事に育てなくてはと思っていたのですが、あまりひどい風邪などもひかないできたので、ちょっと扱いが乱暴になっていたかもしれません。さっき一度目を覚ました瑞穂は「お布団の中、火より熱い」と言って畳の上に転がって行って気持ちよさそうにしていました。熱があっても、そんなこと言える位ならまあ大丈夫かな、と、そんな一言で安心しているところです。たまにこういうことがないと平凡のありがたさを感じないので大切な経験、と思おうとしながらも、やっぱり早く、よくなったコウルサイ娘とムキになって喧嘩したいものです。今度何う時はコウルサイいつもの瑞穂になっていることを願いつつ、せいぜい今日明日は献身的な母親になってみます。それではまたお世話になります。今日は本当にありがとうございました。」。何気なく過ごしている日常の中で、ふと気が付くこともあります。熱性けいれんで心配をしたけど、ひょっとして気付いたということは良かったことなのかもしれません(ごめんなさい!)。次は青葉区の中村さんです。「昨日はご心配おかけしました。夕方には看護婦サンからも、わざわざお電話いただきまして、ありがとうございました。ほんの50センチも離れていない所での怪我だったのでほんとに油断出来ませんね。結局、遊具に顔から突っ込んで歯で下唇の内側を一センチほど切る怪我で、出血もしばらくしたらとまりました。救急車の隊員サンたちも「どうする?病院行く?」と聞かれる程度の怪我でほんと、はずかしかったのですが。救急車の書類には怪我、というよりもかみ傷だね、とおっしゃって、そのように書いてらっしゃいました。状況から頭も打っておらず、意識の混濁もなかったので外科でも簡単な診察で、傷も縫わないことになりました。切れた皮膚が口の中の血に浮いてたので、ほんと、動転してしまって。昨日は一晩様子をみたのですが流れるほどの出血もなくにじむ程度で、今日は傷口が白く盛り上がり来ています。食事も普通に取れてますし、徳州会の外科からは「どうしても気になってらおいで。浅い傷だから、すぐなおるよ。」といわれてるので大丈夫だとも思うのですが。お礼かたがたメールを、と思ったのですが、なぐなぐすみませんでした。こんな訳で、救急車には乗ったものの夕方には元気に遊んでました。ほんとにご心配おかけしました。ありがとうございました。」。経緯はこうです。ケガで出血していると救急隊から電話が入りました。当院での対応が難しいと判断し、その旨救急隊に伝え外科のある病院へ搬送してもらったのでした。しかし、かかりつけで、気になったので電話で状況を確認した次第です。ともかく軽いケガで、一安心。ケガには、十分な注意をして下さい。先月もたくさんのメールや投書、ありがとうございました。



## 10月の感染症の集計



特に流行している感染症はありません。水痘は下火、おたふくや溶連菌感染症は多少多いようです。まだ手足口病が流行していた保育園があります。泉区で麻疹が出ている、インフルエンザウイルスが分離されたという情報もあります。季節の変わり目もあり、咳のひどいかぜや喘息が目立っています。特に麻疹は重症です。早めの予防接種を!!。

## 予防接種のお知らせ

インフルエンザの予防接種開始しました。13歳以上は1回または2回の接種になりました。昨年接種した方は原則として1回でかまいません。また13歳未満では、1~4週間の間隔で2回接種します。接種年齢は生後6ヶ月以降としています。

接種料金(1回) 3000円+消費税

### 午後休診のお知らせ

11月10日(土)は、小児科学会発表と従業員慰安のため午後休診とさせていただきます。御迷惑をおかけしますが、よろしく御理解、御協力をお願いします。

### 編集後記

やっと一区切りの100号になりました。これも支えてくれた皆さんのおかげです。河北仙阪の「私の新聞」コンテストに入選しました。しばらくの間は、当院の患者さんだけでなく、一般の方々の目にも触れることになりました。今まで以上にプレッシャーです。新しい紙面作りに、チャレンジしたいと思っています。



K's clinic